

福島県内で初の震災遺構 請戸小学校の一般公開始まる 浪江町

「東日本大震災と原発事故の教訓を伝える震災遺構となった福島県浪江町の小学校で、10月24日から一般公開が始まりました。

東日本震災時の姿 そのままに保存

福島県浪江町の請戸小学校は、10年前の震災の津波で大きな被害を受け、子どもたちは高台に逃げて無事でしたが、その後の原発事故で全国に避難を余儀なくされました。

福島県内では初となる震災遺構として24日から一般公開が始まり、それに先立って行われた式典では震災当時6年生だった横山和佳奈さんが、「震災と原発事故から10年以上が経過し、震災前の日常の記憶が少しずつ薄れている自覚があります。請戸小学校には震災の教訓を伝える伝承施設であるとともに、地元の人がまた、集まれる場所になってほしい」とあいさつしました。

津波で浸水した1階部分には、ぼろぼろになった教室の壁や床、泥だらけのオルガンなどがそのまま保存されているほか、体育館には2週間後に予定されていた卒業式の横断幕がかかげられたままになっています。

また、2階には原発事故による避難指示で行方不明者の捜索が困難になったことなどを説明するパネルや、避難先から訪れた卒業生たちがメッセージを残した黒板などが展示されています。

公開初日の24日は地元の人などが訪れ、校舎の姿を思い思いに眺めていました。

福島県葛尾村から子どもと一緒に訪れた37歳の男性は、「実際に見て津波の被害の大きさに圧倒されました。請戸小学校は、全国の子どもたちが災害の教訓を学べる場所になってほしいです」と話していました。

当時幼稚園児の高校生「被害の現状を多くの人に知ってほしい」

原発事故の後、小学校のある請戸地区から福島市に避難した17歳の男子高校生は、「震災当時は幼稚園の年長で、記憶があまり残っていませんが、その年に入学予定だった請戸小学校に来てみて、津波でここまで大きな被害を受けていたことに驚きました。この現状を多くの人に知ってほしいと思いました」と話していました。

また、震災当時請戸小学校の6年生だった男性は、「きょうの一般公開では、原発事故で離れ離れになった同級生たちとも再会することができてうれしかったです。請戸小学校には、自分たちの仲間が集まって思い出を語れるような場所になってほしいです」と話していました。」（「NHK」2021年10月24日）

■図表 東日本大震災による浪江町の人的被害（平成28年3月末）

東日本大震災による直接死		182名
（内訳）	溺死	150名
	行方不明者（※）	31名
	圧迫死	1名
東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による関連死		383名

※戸籍法第86条第3項による行方不明者の死亡届

（浪江町公式ホームページ）